

他者と共創する未来へ。26年4月、 「国際共創学部」設置構想中

成蹊大学／国際共創学部（仮称）

Seikei University

文系・理系の枠組みをこえた 新しい学部が誕生

社会課題が複雑化する現代。1つの分野の知識のみでの課題解決は難しく、異なる専門を持つ多様な人々と協働する社会へと変わりつつある。成蹊大学では、2026年4月、

「国際共創学部（仮称、以下同）」を設置構想中である。持続可能な社会の実現のために、「文系と理系」「ローカルとグローバル」「理論と実践」の複眼的思考と他者との「共創」によって、様々な現代の社会課題の解決に貢献できる人材の育成をめざすという。「複眼思考」とは、物事を多角的に考察すること。同じ出来事でも、置かれた立場で捉え方は異なるため、社会の様々な場面で「複眼思考」を持つ人材の重要性が高まっ

ており、時代に即した人材育成方針となっている。新学部は、1学科「国際共創学科（仮称、以下同）」で構成され、その下に「国際日本学専攻（仮称、以下同）」と「環境サステナビリティ学専攻（仮称、以下同）」の2つの専攻が設定される。

「文理の複眼思考」を養う 2つの専攻

「国際日本学専攻」では、「文化学」「地域学」などを基盤とし、生活文化からポップ・カルチャーまで、多様な文化や人の営みを探究。異文化間の理解を深め、世界と日本の架け橋となる人材を育成する。

「環境サステナビリティ学専攻」では、「環境学」「地理学」などを基盤とし、環境、気候変動から観光、防

災まで、地域や社会を見つめながら社会課題の本質を探究。未来社会に必要な課題解決力を養う。

学生はそれぞれの専攻の学びを通して専門性を確立するが、専攻を横断して学ぶこともできる。同じ専攻に所属する学生でも異なる専門性を身につけ、将来の進路選択に活かすことができる点が他にはない大きな特色。「国際共創学部」は「文理の複眼思考」を養うことを掲げた国内では数少ない学部といえる。

国内外でフィールドワークなど 主体的な学びを実現

成蹊大学は、創立以来、「本物に触れる教育」を重視してきた。「国際共創学部」では、多様な地域でフィールドワークを実施する。東京・吉

教育改革が進む成蹊大学。2026年4月には、「国際共創学部（仮称）」の設置を構想している。文系・理系の複眼思考を養うという、未来社会を見据えた新しい学部がめざす教育、養成する人材像に迫る。

取材・文／福島寿恵



※2026年4月、「国際共創学部」設置構想中。
※収容定員増加の認可申請予定（2025年3月）。内容は変更になる場合があります。

専門知識・スキルの掛け算で、持続可能な未来を「共創」しましょう。



成蹊大学
国際共創学部(仮称) 学部長(就任予定)
藤原 均 教授

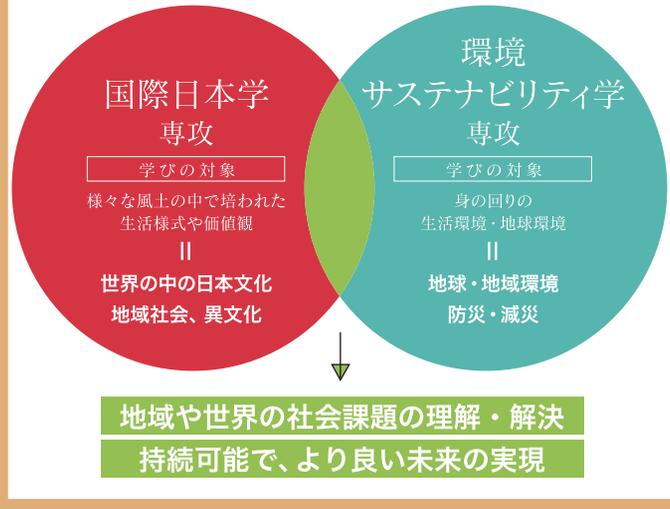
専門は地球物理学。オーロラに伴う大気変動を研究。国立極地研究所客員教授。受賞歴に日本気象学会堀内賞など。

AIの登場をはじめ、私たちを取り巻く社会情勢が大きく変化しています。あらゆる領域でボーダレス化が進み、ダイバーシティがますます尊重される現代は、一つの専門・概念だけでは解決できない問題が山積しています。このような背景の下、成蹊大学では2026年4月に「国際共創学部(仮称)」を設置構想中です。

「国際共創学部」の最たる特徴は文系・理系の枠をこえて学べることです。学生は興味に応じて様々な履修科目を選択することができます。関心ある分野を探究することで、自らの専門性を見出し、磨くことができます。そして、現場で体験しながら学ぶフィールドワークで主体性と協働性を養うとともに、実践的な英語力、データサイエンスなどの情報分析力を培い、分野横断的な知識と技能を修得していきます。一人ひとりの課題意識に関連づけて学ぶことができるカリキュラムを用意していますので、学ぶ意欲がある方に来ていただき、共に新たな学部を創っていきたくと考えています。

最近では、GX(グリーン・トランスフォーメーション)など環境やサステナビリティに関わる人材へのニーズが高まっています。そうした、新しい未来を創る次世代人材をはじめ、グローバル・分野横断的な視点から、持続可能な社会を構築できる人材を育成していきたくと考えています。

「文理の複眼思考」を養う2つの専攻



祥寺や、2024年9月に連携協定を締結した北海道・帯広市のほか、海外での実施も予定している。現地での実体験を通して得られた気づきを理論と結びつける。

加えて、グローバル教育も充実させる。1・2年次は教養カリキュラムでレベルに応じた英語の授業を行うほか、英語で学ぶ・英語を学ぶ科目は必修・選択を合わせて60科目超。専門的な内容を英語で学ぶ科目や英語圏以外の言語や文化を知る科目、留学などを通じて、グローバル・コミュニケーション力を養成する。さらに、Society 5.0時代の必須スキル、データサイエンスやAI技術の基盤となる科目などで、データ分析・活用

Information

成蹊大学



教育者中村春二により1912年に創立された成蹊実務学校が源流。後の1925年に創設された旧制高等学校が戦後の学制改革で現在の成蹊大学となった。創立以来、「少人数制による個性尊重の人格教育」やESD(持続可能な開発のための教育)の理念につながる教育(100年の歴史を誇る気象観測をはじめ、自然現象を観察する理化教育、環境教育など)を実践。「本物に触れる教育」の伝統は、現代まで脈々と受け継がれている。

● DATA
〒180-8633 東京都武蔵野市吉祥寺北町3-3-1
TEL 0422-37-3517 (成蹊学園企画室広報グループ)
URL <https://www.seikei.ac.jp/university/>

力も身につける。こうした新しい学びにより、「知識と思考力」「表現力と発信力」を身につけ、他者と協働して課題解決に取り組む力「チームワーク力と実行力」を育む。

卒業後は充実したキャリア教育・支援を享受しつつ、新学部で身につけた力を活かした進路選択が可能。様々な企業のグローバル部門・サステナビリティ(CSR)部門・企画部門、自治体の国際交流部門や環境保全部門などでの活躍が期待される。

ワンキャンパスだからこそ生まれる、教育連携

部が東京・吉祥寺で学び、ワンキャンパスである利点を活かした分野横断型の教育を推進してきた。所属する学部とは異なる専門領域を学ぶ「副専攻制度」や、インターンシップが特徴の「人材育成プログラム」MBT(丸の内ビジネス研修)、「国際教育プログラム」GSP(グローバルスタディプログラム)など、学部横断型プログラムで、学生の可能性を伸ばしている。「国際共創学部」の設置によって、大学全体の教育連携がより一層強固になるといえる。

「個性尊重の人格教育」の伝統に裏打ちされた成蹊教育は時代に即して継承されており、今後も唯一無二の人材を育成していく。